

中央区男女共同参画ニュース「ブーケ」

Bouquet



No.83 2018.10

特集

◆東京2020オリンピック・パラリンピックで輝く個性
◆第17回中央区ブーケ祭りを開催しました！



中央区男女共同参画ニュース「Bouquet(ブーケ)」は女性センターや区の施設などで配布しています

東京2020オリンピック・パラリンピックで輝く個性

夫婦で目指す、東京パラリンピック

視覚障害者柔道選手

廣瀬順子さん、廣瀬悠さんにインタビュー

東京2020オリンピック・パラリンピックまで約2年。晴海では、選手村の建設も進んでいます。視覚障害者柔道の選手として夫婦で活躍している廣瀬順子さん・廣瀬悠さんに、普段の練習や生活、パラリンピックに対する思いなどを伺いました。



廣瀬順子（ひろせじゅんこ）さん
廣瀬 悠（ひろせゆう）さん

2015年10月、中央区日本橋に本社がある伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社に入社、柔道を通じた広報活動に従事する。2015年12月に結婚。リオデジャネイロ2016パラリンピックには夫婦そろって出場し、順子さんは柔道女子57kg級で銅メダルを獲得、悠さんは柔道男子90kg級で9位の成績を取った。

柔道との出会い

——柔道を始めたきっかけをお聞かせください

順子さん：私は、小学校5年生のときに、『あわせて1本！』という漫画を読んで、主人公の女の子に憧れて柔道を始めました。家族の誰かが柔道をしていた、というわけではありません。スポーツが苦手な体育の授業は嫌いでしたが、みんながやらないことを、自分ができるようになって楽しかったです。

悠さん：僕は、小学校2年生の時、同級生が柔道のクラブに入っていて、その子のお父さんが指導者だったので、誘われて始めました。体が大きかったので、柔道を始めて1週間ぐらいですぐに試合に出ることになりましたが、まあまあ強かったですね。（笑）

視覚障害者柔道を始めたきっかけ

——どのようなきっかけで、視覚障害者柔道を始めたのですか
順子さん：私は高校卒業後、19歳のときに膠原病にかかって半年間入院している間に、合併症により視力が低下しました。今もずっとそのままです。一度柔道をやめたのですが、目が見えにくくなって周りの人と同じようにできないことが多くなり、もう一度、一生懸命になったり、夢中になれることがほしいと思いました。大学3年の時、視覚障害者スポーツのお手伝いに行くと、柔道の先生を紹介していただいたのがきっかけで、また始めました。視覚障害者柔道は、一般の柔道とは違って、相手と組んだ状態から競技が始まるので、戸惑いはありました。

悠さん：17歳のとき、コンタクトレンズを作るために病院に行き、緑内障と診断されました。緑内障で視野欠損が出て、現在に至りません。視覚に障害のある人の学校に通い始めたのですが、担任の先生が陸上競技でパラリンピックに出場してメダルを取った方でした。社会人になってから、その先生に

勤められて25歳で視覚障害者柔道を始めました。相手と組んでから競技を始めることしか知らなかったのも、試合に出たら、一般の柔道との違いにびっくりして、決勝で負けました。悔しかったですね。

視覚障害者柔道の魅力

——視覚障害者柔道には、どのような特徴、魅力がありますか
悠さん・組んでから始めること、障害の程度別ではなく、体重別で試合をします。全く見えない人も弱視の人も一緒に試合をすることが、他の競技とは全く違います。順子さん・組んでから始めるので、一般の柔道よりも技の攻防が激しくて、「二本」で勝負が決まることが多くなります。他の障害者スポーツは障害者だけで練習をしますが、



▲未来のメダリストを目指す子どもたちの柔道教室で

◀2018年ワールドカップで順子さんが金メダルを獲得

写真提供：伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社

視覚障害者柔道は、組んでから始めていただければ、目の見える方と練習できるのも魅力だと思います。

アスリート雇用で日本橋の会社に入社

——お二人が入社されたきっかけについてお聞かせください

悠さん・僕は愛媛の会社で働いていたのですが、今の会社が2020年に向けてアスリート雇用をすると聞いて面接を受けました。その時「僕よりもメダルを取れる人がいますよ」と順子さんを紹介して、どちらか受かれば良いなと思ったら、二人とも採用になりました。

順子さん・私も、後でご連絡をいただいて面接を受けました。

悠さん・僕たちの業務は柔道を通じた広報で、生活の本拠地の松山では練習に専念し、試合や合宿があるときは東京に来ます。柔道に専念できる会社に就職したのは良かったです。

同じ種目の競技者としてのパートナーシップ

——普段はどのように練習されていますか

順子さん・普段は、ランニング、

筋力トレーニング、柔道の練習があつて、基本的に全部一緒に行動しています。柔道ときは悠さんが私の柔道を見てアドバイスしてくれます。コーチですね。心強いです。

悠さん・練習は順子さんと同じです。柔道は、高校、大学の練習に参加させてもらって、高校生や大学生と練習しています。

順子さん・私も、柔道の練習は女子大学生とやっていますが、最初から組んだ状態で始めてもらいます。悠さんも一緒に来て、重量級の女の子たちと練習しています。悠さんが高校、大学で練習するときは、私は体重の軽い人と練習しています。

——夫婦で同じ種目の競技者であることの強みは何でしょうか

順子さん・一緒に行動できること、理解し合えること、一人が練習に行きたくないとき、もう一人が引っ張って練習に行けることだと思います。

悠さん・順子さんは視野の中心が見えず、僕も視力が低いです。ランニングや筋力トレーニングをするときに二人で補えるのが一番大きいです。トレーニング場も介助者がいないと貸してくれないと

ころが多いですが、二人だと貸してもらえたりします。

夫婦としてのパートナーシップ

——ところで、お二人はどのように家事を分担されていますか

悠さん・家庭では「やってもらって当たり前」という考えはやめて、気付いた方が家事をします。これは結婚生活の中で出てきたルールです。

順子さん・助けってもらったり、家事をしてもらったら、相手に「ありがとう」をちゃんと伝えようね、ということを大事にしています。

悠さん・僕たちは障害者なので、いろいろな人に助けってもらってはじめて普通に生活ができると思っています。だから、助けってもらって当たり前ではなく、感謝の気持ちを忘れないということを二人の決め事になっています。初めは、家事経験が多かった僕の方が家事の7、8割近くをやっていました。最近は二人で半々ぐらいになりました。僕の得意な家事は掃除です。順子さん・私は、これが得意という家事はありませんが、頑張っつてやっています。料理は好きです。悠さん・順子さんの料理は、結婚

当初よりおいしくなりました。目が悪いのに調味料を計らないんですよ。ばあつと、肉眼で見えるくらい調味料を入れる。(笑)

順子さん…見えないと不安なので、見えるくらい入れたらすごい量だった。(笑)

悠さん…今はだいぶ慣れて、大きい杯とか、決まった量しか出ないような便利なアイテムを使うようになっていています。あとは、僕が横で見ている「多いんじゃない？」などとアドバイスをしたりします。

リオデジャネイロから 東京へ

——リオデジャネイロパラリンピックで順子さんが銅メダルを獲得した時は、どんなお気持ちでしたか

順子さん…まず勝てたことと試合が終わったことのうれしさがありました。帰ってきてから銅メダルを見て、いろいろな人が喜んでくださる姿を見て、メダルを取れて良かったなとうれしくなりました。悠さん…順子さんは、世界大会もずっと3位決定戦で負けてメダルが取れていなかったの、こういう大きな舞台でメダルが取れるのは、すごいなと思いました。

順子さん…祝勝パレードでは、「廣瀬さん」、「ありがとう」、「感動したよ」と言ってくくださる方が大勢いて、パラリンピックもオリンピックと同じように見てもらえたんだと実感しました。

——東京パラリンピックに向け た抱負をお聞かせください

順子さん…リオデジャネイロでメダルを取って以来、たくさんの方が応援してくださって、2020年の東京も会場に応援に行きたいと言ってくくださるので、そういった気持ちに込められるように、出場を目指して頑張っています。

悠さん…僕は2020年には40歳を超えるので、出場できたらいいなと思っています。

順子さん…東京パラリンピックへの出場もそうですが、その先も障害者スポーツや障害者柔道への理解が続いてくれたらいいなと思って、今、二人で活動しています。

悠さん…柔道自体の競技人口が減っていて、問題になっています。僕たちのような柔道を楽しむというスタイルは、昔は否定されていましたが、「もっと柔道を広めたい」という思いで、このスタイルを貫いています。

順子さん…人生はいつ何が起るかわ

分らないので、一日一日、私生活も楽しみながら、柔道も一生懸命頑張っています。

悠さん…僕も順子さんも、視覚障害者や視覚障害者柔道のことをもっと知ってもらいたいという思いがあって、子どもたちや、社会人に向けた講演などを行っています。順子さん…私は、人前で話すのが得意ではないので、二人で講演に行かせていただいています。

選手村への期待

——晴海にできる選手村にはどんなことを期待しますか

悠さん…僕は北京とリオデジャネイロのパラリンピックに出場しましたが、選手村でさまざまなおもてなしをしていただいで、楽しく過ごすことができました。東京では、「永住したい」という気持ちになるくらい、温かく迎えていただいで、試合に集中できる環境をつくっていただけるとうれしいです。2020年も出場できたら3度目ですが、僕はとても楽しみにしています。

順子さん…私も、リオデジャネイロの選手村はとても楽しかったです。ただ、段差があったり、穴が開いていたりするところがありま



した。日本では弱視の人が見えるように、通路には誘導のための黄色い線を引きますが、それが無いとか、そのようなことが結構多かったです。安心して過ごせる工夫をしてもらえるとありがたいです。悠さん…僕らが海外に行くと、電車に乗るときも段差がほとんどなくて簡単に乗れたり、白杖を持っていると席を譲ってくれたり、周りの人が自然に助けるのが当たり前になっていきます。そこが日本と海外との違いだと思います。順子さん…人がバリアフリーか、施設がバリアフリーか。悠さん…うまいこと言うね。(笑)施設だけではなく、人のバリアフリー化が大事ですね。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて 区内で活動している団体の紹介

自分結い ^{わがみ} 大江戸和髪学会

「自分結い 大江戸和髪学会」は、和と輪を重ねる心を大切に、和髪、着物、盆踊りを通じて、日本の伝統文化を未来に、世界につなぐ活動をしているボランティア団体です。「和髪」とは、自分で手早く日本髪風の髪を結う技術で、自分の髪を生かして自分に合った髪形を作れる良さがあります。メンバーのほとんどは女性で、経営者、主婦、企業に勤めている人、舞踊家など、さまざまな分野で活躍している人たちです。

月1回の和髪の稽古の後は銀座で写真撮影を行っています。着物を着て和髪を結ったメンバーを見て、多くの外国人観光客がカメラを向けます。「一緒に写真を撮ってほしい」という個別のリクエストがあれば、メンバーも快く応じています。事務局長の林良江さんは、「銀座での写真撮影は観光大使のつもりでやっています。現在の夢は、東京2020オリンピックの開会式で、着物に和髪で盆踊りを踊ることです。盆踊りは誰でも踊れますし、世界中から来る人との輪ができます。そのために、みんなで盆踊りの練習を始めました」とお話しされていました。



自分結い 大江戸和髪学会
<https://www.facebook.com/ooedowagamigakkai/>



一般社団法人 中央区ラグビーフットボール協会

一般社団法人中央区ラグビーフットボール協会は、区内にラグビー場がほしいという願いから活動を始め、ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピックの7人制ラグビーを盛り上げようと、タグラグビーの体験会や小学校の授業の支援などを行っています。

タグラグビーは、子どもがラグビーの試合に出る前の訓練として考えられ、タックルをしない代わりに腰につけたタグを引くことでぶつかり合いを極力なくし、安全にプレーできるようにしたスポーツです。年齢や性別に関係なく一緒に楽しむことも魅力の一つで、明正小学校で月2回行っている体験会では、大人も子どもも、女性も男性も、積極的にゲームに参加しています。代表の坂田光司さんは「ラグビーは、一人一人が周りをよく見て、状況判断をして動くことが大事。“競争”よりも“協働”のスポーツです。タグラグビーでボールをコントロールする方法やパスの出し方などを経験していれば、ワールドカップやオリンピックも面白く観戦できると思います」とお話しされていました。



一般社団法人中央区ラグビーフットボール協会
<https://www.crfu.jp/>

第17回中央区ブーケ祭りを開催しました!

特集

開会式



受付の様子

「職場で、地域で、家庭で働く人たちへの応援歌」を合言葉に、男女共同参画週間（6月23日～29日）に合わせて開催される「中央区ブーケ祭り」。第17回を迎える今年は「あなたのハート ブーケに集めて」をテーマに、6月22日（金）、23日（土）に開催しました。

会場となった女性センター「ブーケ21」では30の参加団体による展示やパフォーマンスが行われ、1,300人近い来場者でにぎわいました。



展示



カトレアグループ 色とりどりのかわいい花で、ミニブーケや寄せ植えを作りました



オスビーの会 コーヒーやお菓子を販売し、手芸作品を展示しました



エガリテ 江戸の世にわが道を生きた女性たちを紹介しました



京橋防火女性の会
防火・防災に関する普及活動を行いました



カラーの会・アヌビス カラーセラピーとハンドトリートメントを行いました



かな書道を親しむ会
かな書道の作品を展示しました

パフォーマンス



東京都下水道局桜橋第二ポンプ所
豪雨時の浸水から街を守る下水道
について、紙芝居で紹介しました



新婦人コーラスエーデルワイスの会
声を合わせ、心を合わせて、みんなで一緒に歌いました



音和会 三味線の演奏と盆踊りを披露しました



レイ・ロケラニ 楽しいフラダンスを数曲発表しました



朗読ボランティアグループわかはや会
「会食」、「道具の魂胆」、「だいじょうぶだよ、ソウさん」
を朗読しました



アマービレ
声楽の勉強の成果
を披露しました



わすれな草 健康・笑顔になるボイストレーニングの
レッスン風景を再現しました



朗読の会 井上ひさし氏、米倉斉加年氏の作品を群読しました



展示



傾聴ボランティアグループうさぎの会
活動内容を写真で紹介しました



暮らしを考える会 おいしいコーヒー（紅茶）の
淹れ方を紹介しました



銀座育成婦人会 一年間の活動報告の展示と小
物作りの体験を行いました



中央区社会福祉協議会
社会福祉協議会の事業を紹介しました



中央区環境保全ネットワーク 身近な自然に目
を向けて楽しむワークショップを行いました



新婦人女性の地位向上委員会
平和を願う絵手紙の展示と体験を行いました

ブーケ祭り実行委員会企画

ひまわり SARUE
「フルーツ・サクソス演奏と歌」

ブーケ祭りの2日目は、福祉施設や各種イベントに音楽を届ける活動をしている団体「ひまわり SARUE」をお招きしました。

音楽を聴きながら心身をほぐした後、フルーツとサクソスの演奏に合わせてみんなが知っている懐かしい歌と一緒に歌いました。最後は、セミプロのメンバーによる素晴らしい歌声に耳を傾け、音楽でリラックスできる楽しい時間を過ごしました。



手作りアクセサリワークショップ
「幸せのクローバーブローチ作り」

ブーケ祭りの初日は、布を染めて作った花、葉、茎のパーツを組み合わせ、クローバーのブローチを作るワークショップを行いました。



みんなで1つの作業台を囲み、分からないところは講師に聞いたり、隣の人の作業を見せてもらったりしながら、和やかな雰囲気の中で手作りを楽しみました。一人一人の個性が光る、かわいいブローチができました。

ブーケ祭り実行委員会では、手作りアクセサリのワークショップ「フルーツ・サクソス演奏と歌」を行いました。また、クイズラリーや東日本大震災復興支援の南三陸わかめ頒布、カフェ・軽食コーナーを設置し、おいしいクッキーの販売も行いました。



展示



中央区女性史勉強会 明治から昭和にかけて活躍した中央区の女性を紹介しました



中央区女性海外研修者の会 「台所から世界が見える」(カンボジア料理)の様子を紹介しました



中央区消費者友の会 家電製品の快適な使い方、健康寿命を延ばす食事術を紹介しました



中央区文化財サポーター協会 まち歩きで知る、中央区の魅力を紹介しました



中央区つつじ会 手芸教室の作品展示と小物作り体験を行いました



中央区女性ネットワーク 2017年度の活動内容を紹介しました

【閉会式】

東日本大震災の被災地復興を応援する歌「花は咲く」をみんなで歌い、第17回中央区ブーケ祭りの幕を閉じました。



南三陸わかめ頒布



クイズラリー



カフェ・軽食コーナー



展 示



女性センターもワーク・ライフ・バランス認定企業を紹介しました



日本橋モラロジー事務所 感謝、道徳的な活動を次世代につなげる活動を紹介しました



東京建築士会 女性委員会 小さな改修から空き家問題まで、建築相談を行いました



FLAP はばたき すまいと相続、税金・年金に関する相談会を行いました



人形教室みやび会 木目込み人形、押絵を中心とした作品を展示しました

水曜イブニングトーク
平成30年度のテーマ「世界から来たおとなりさん
聞いてみよう！いろいろな国と中央区」

報告 第1回
イギリスから来たダニエルさん

7月4日(水)、浜町敬老館「いきいき浜町」で英語教室を開催しているダニエル・ロズドバ・ハローズさんをお迎えし、今年度1回目の水曜イブニングトークを開催しました。

ダニエルさんはイギリスから日本に来て18年。ブラジルで格闘技「カポエラ」を習得、さらに言語学を学ばれた文武両道の経歴の持ち主です。

進行役から紹介されて早速、楽器の楽器、三線です。沖縄の調べを奏でたのがあいさつで始まり、「日本の印象は？」の問いかけには、道に迷った時、女性の優しさにとっても感動されたそうです。また旅行がお好きで、屋久島の神秘的な風景は他に類を見ないとのこと。終始和やかな雰囲気でお話が進む中、語学上達のポイントにも触れ、「その国に行き、その国の文化に接することが一番」とのご指摘に、会場のどなたもダニエルさんの体験をお聞きして、すっかり納得されたようです。

事業協力スタッフ 村田進益



ダニエルさん



報告 第2回
バングラデシュから来たジアさん

8月1日(水)、カレー居酒屋「アイマ」を経営しているフイヤン・エムディシアウル・ラフマン(ジア)さんをお迎えしました。

ジアさんは日本に住んで14年。バングラデシュで国家公務員として働き、日本に留学後、ボランティアをしたいと仕事を辞め、再来日しました。日本でハラルフード(イスラムの教義にのっとって食べることが許可されたもの)が入手できず困った経験から、他にも困っている人がいるはずと考え、お店を開きました。会社経営の傍ら、ホームレスの支援もしています。

日本ではみんなが時間を守り、教育面でも優れているが、高齢者が大事にされていないと感じること。バングラデシュでは政治面で女性が活躍している一方、生きるために仕事をして学校に行けない人も多いそうです。

「日本のカレーは、見た目はカレーだけど辛い。でもおいしい」など、ユーモアを交えて日本とバングラデシュの違いをお話しいただきました。



ジアさん



報告
女性のための再就職支援
「キャリア講座」(夏コース)

5月17日(水)、6月7日(水)、7月12日(水)の3回にわたり、「キャリア講座」(夏コース)を開催しました。第3回のパソコンスキル入門(Word初級講座)は日浦敬子さんを講師にお迎えし、パソコンの基本操作、Wordでさまざまな文書を作成する方法を学びました。

パソコンの基本操作では、キーボードからさまざまな操作を素早く実行できるショートカットキーや、目的のフォルダやファイルを素早く開くショートカットの使い方を教わりました。

続いて、講師が用意した見本を参考に、さまざまなビジネス文書を作りました。どんな文書を作成するときも、最初に余白の大きさ、縦書き・横書き、行数、文字数などのページ設定を行います。それができたら、まず文章だけを入力し、その後、文字の大きさや書体、レイアウトを変更して体裁を整えます。文書作成の基本から、あいさつ文、表作成、箇条書き・段落番号、画像の取り込み、差し込み印刷など、便利な機能をたくさん学びました。



日浦敬子さん



報告
ほっと一息私の時間
「ハーブアロマの香り」包まれて
心も体もフレッシュ〜わたし好みのハーブバスルトを作ってみませんか〜

奇数月の第3水曜日の午前中に開催する「ほっと一息私の時間」。7月はアロマセラピストの直井真由美さんをお迎えして、自分好みのハーブバスルトを作りました。

まず、夏バテで疲れた体に良い薄紅色のハイビスカスティーをいただきながら、植物から抽出した香りの成分(精油)を使って心や体のバランスを整えるさまざまな方法を学びました。

次に、一人一人が好みの香りを選び、バスルトを作りました。天然塩に「リラックス」、「リフレッシュ」、「冷えに」、「むくみに」、「免疫力アップ」などの効果が期待できる精油を混ぜ、ハーブも加えます。最後にハーブから抽出した赤または青の液体で色を付けて完成です。精油は揮発性のため、浴槽には入浴直前に入れると効果的とのこと。植物の香りに包まれ、ゆったりとしたひとときを過ごしました。



直井真由美さん



報告
 中央区・東京商工会議所中央支部主催
 ワーク・ライフ・バランスセミナー
「辞めないう女性社員」の育て方

7月20日(金)、株式会社ダブルビーイング代表取締役社長の響城れいさんを講師に迎え、経営者の「コミュニケーション術をお話しいただきました。」

まず、ご自身が20年勤めた会社での経験を踏まえ、経営者が女性社員に対して「絶対に仕事を辞めてはいけない」と言い続けることが必要とお話がありました。

母・妻の役割などが仕事のブレーキになりがちな女性社員の能力を生かすには、チャンスを与えると同時に「失敗してはいけない」という思い込みを払拭(はらいつく)することが大切とのこと。また、産休・育休中の社員の職場復帰を促すには、頻繁に連絡をとることがポイントとのことでした。辞めない女性社員を育てるには、経営者が自ら笑顔で接し、その人の存在や行動、仕事を認めるアクションを起こすことが大事だということをお話しました。



響城れいさん



問い合わせ先

女性センター「ブーケ21」
 電話番号
 03-5543-0651

女性センター「ブーケ21」
 ホームページ
 QRコード



平成30年10月・11月に開催される講座などのご案内

*会場は、男女共同参画セミナーは中央区役所、キャリア講座(11月8日)はハイテクセンター、その他は女性センター「ブーケ21」です。
 *募集は広報紙「区のおしらせ中央」発行後です。詳しくは広報紙「区のおしらせ中央」をご覧ください。

講座名	日時	講師	内容	対象など	「区のおしらせ中央」掲載号
女性のための再就職支援 「キャリア講座」 秋コース	10月18日(木) A 午前9時30分 ～ 10時55分 B 午前11時5分 ～ 12時30分	栗原知女さん (キャリアコンサルタント)	A 段取りよく仕事を進めるためのIT活用術 B 具体的な仕事探しのポイント(女性しごと応援テラス) * A、B どちらか一方の参加も可能です。	離職した方で、再就職を希望する女性・30名(先着順)・無料	8月1日号
	11月8日(木) 午前10時～ 午後3時	日浦敬子さん	パソコンスキル Excel 初級		
「キャリア相談」			一人一人の状況に応じた個別のカウンセリングを行います。 日時など詳細はお問い合わせください。	先着順・無料	
男女共同参画講座 「介護は突然やってくる。 その時、どうする? 仕事、 介護、生活……」	10月13日(土) 午前10時～ 正午	津坂直子さん (あおぞらコンサルティング)	介護と仕事を両立していくための生活の工夫や利用できる制度を紹介します。	30名程度(先着順)・無料	9月11日号
男女共同参画セミナー 「女性社員のポテンシャル を引き出すコミュニケーション スキル」 主催: 中央区 東京都労働相談情報センター	A 10月19日(金) B 10月26日(金) 午後6時30分～ 8時30分	川崎貴子さん (Lintos 株式会社代表)	A 「女性社員活躍のための上司の課題」 B 「女性社員育成のためのコミュニケーション」	事業主、人事労務担当者、その他関心のある方・各回100名(先着順)・無料	10月1日号
男女共同参画助成事業 「親子で歌ってリフレッシュ!!」 主催: 子育てリーダー CHUO 申し込み不要	11月17日(土) 午前10時～ 11時30分	たいらいさおさん (童謡歌手、NHK「おかあさんといっしょ」第3代歌のお兄さん)	親子で楽しめる童謡・あそび歌などをみんなと一緒に歌い、楽しいひとときを過ごしましょう。	区内在住の0歳から小学校低学年までのお子さんとその保護者・25組(先着順)・無料	10月1日号

*申し込み方法は広報紙「区のおしらせ中央」をご覧ください。

託児 は申し込み締め切り日および定員あり

パネル展の日程

女性センター「ブーケ21」1階ロビー
11月10日(土)～12月26日(水)
月島区民センター 1階ロビー
11月10日(土)～16日(金)
日本橋区民センター 1階エントランスホール
11月17日(土)～20日(火)
区役所本庁舎1階ロビー
11月21日(水)～26日(月)

毎年、11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。区では、女性に対する暴力の防止を呼び掛けるパネル展を実施します。

お知らせ
女性に対する暴力をなくす運動
パネル展

21へお問い合わせください。
 ※応募方法は女性センター「ブーケ21」へお問い合わせください。
 締切 11月30日(金)(必着)
 認定式 平成31年4月
 一般財団法人など
 以下に企業、一般社団法人、
 区内に事務所を置き、常時雇
 用する従業員数が300人

募集
中央区ワーク・ライフ・バランス
推進企業の募集について
 仕事と子育て・介護との両立支援や長時間労働削減など働きやすい職場の実現に向け取り組んでいる事業所を中央区ワーク・ライフ・バランス推進企業として認定しています。

テーマ 届け！心のまん中に ～共に生きる、家族の絆～

講演 「ダウン症の娘と共に生きて」

講師 金澤泰子さん(書家)

映画 『エール!』 2014年/フランス映画



講師の金澤泰子さん

7月7日(土)、中央区女性ネットワークと中央区の共催により日本橋社会教育会館ホールにて「講演と映画のつどい」を開催しました。13回目を迎えた今回のテーマは「家族の絆」です。

講演では、ダウン症の書家として有名な金澤翔子さんの母親で書家の金澤泰子さんを講師にお迎えし、ダウン症の娘さんを育てて学んだことや、人としての役目に気付いたことなどについてお話を伺いました。“全てのことに無駄はなく、全てのものに価値がある”という深いお言葉や、“大きな不幸が人生のチャンス”という前向きな姿勢に触れ、参加者の多くが元氣と勇気もらったのではないかと思います。



フランス映画『エール!』は、聴覚障害のある家族の中で育った少女が、歌手になる夢を家族に理解してもらおうと奮闘する姿を描いた笑いあり涙ありの作品で、見終わった後はさすがしさが残った感動作でした。

若い世代の姿が多く見られた今回の「講演と映画のつどい」ですが、世代を超えて家族の大切さや絆についてあらためて考えるきっかけになれば幸いです。 中央区女性ネットワーク 会長 三田富貴子

館長雑記



他人の気持ちに「寄り添う」こと

▶豪雨、酷暑、台風…と、まさに「踏んだり蹴ったり」の日本列島です。新聞を広げても、汚職や凶悪な犯罪などが連日報道され、楽しいニュースはあまり見られません。▶その中で、「やったー!」と心から喜び、感激したニュースは、山口県で2歳の男の子が行方不明になり、68時間後に無事、発見、救出されたことです。親族さえ、「もう諦めなくてはならないのか」と思い始めたという経過でしたが、大分県から駆け付けて捜索に加わった78歳の男性ボランティアが発見したのです。▶驚いたことは、彼が、東北、九州、西日本など近年の自然災害の被災地の支援に奔走するボランティアでもあったこと一知らなかった!彼の言葉をテレビで聞くと、「見つかったら、飴をなめたいだろう」とか「子どもは坂を下って行かない、登る方向を捜そう」とか「自分が彼だったら、このとき、どうしたんだろうか」と考えるなど、まさに「困っている人に『寄り添う』」態度そのものであることです。幸運が味方したところがあるとはいえ、きっと被災地支援をするボランティアの天性とその経験から身に付いたものでしょう。▶他人の気持ちに「寄り添う」ことの、簡単に見えて難しいことを淡々とこなす態度にあらためて教えられました。(松川淳子)

「ブーケ21」女性相談をご利用ください

配偶者等や交際相手からの暴力をはじめ、仕事や家庭、生き方など、女性のさまざまな悩みに専門相談員がお応えします。一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

相談・予約電話番号 03-5543-0653 (相談無料、秘密厳守)

電話相談(予約不要) 毎週月曜日 午前10時から午後4時(ただし祝日、年末年始を除く)

面談相談(予約制) 毎月第1・5水曜日 第4火曜日 午前10時から午後4時
毎月第2火曜日 第3水曜日 午後3時30分から午後8時30分
(ただし祝日、年末年始を除く) *託児付き(要予約)
上記以外の時間でも、女性センター開館時は予約を受け付けます。

女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか?

「ブーケ21」は男女共同参画を推進し、一人一人が自分らしく生きることができる地域社会を目指す拠点施設です。女性、男性どなたでもお気軽にお越しください。

〒104-0043 中央区湊一丁目1番1号
電話番号 03-5543-0651
ホームページ <http://bouquet21.genki365.net/>
◆開館時間 午前9時から午後9時(12月28日から1月4日までと臨時休館日を除く)

- 東京メトロ日比谷線・JR京葉線 八丁堀駅下車 A2・B3出口徒歩3分
- 都バス「東15」(深川車庫前⇄東京駅八重洲口/豊洲駅前・明石町経由) 鉄砲洲下車 徒歩3分
- 江戸バス「南循環」鉄砲洲下車 徒歩3分 入船三丁目下車 徒歩3分 「北循環」八丁堀駅下車 徒歩3分

